

はこねぐみ

Elaeagnus Matsunoana Makino

相模、甲斐駿河等の山地に産する落葉灌木で、高さ2-3m、よく分枝し、小枝は灰褐色、幼時は淡黄褐色の鱗片と星状毛を散生する。葉は広披針形又は狭卵形で、尾状鋭尖頭鈍端、薄質、無光沢、上面は成時も淡黄褐色の星状毛があり、下面は銀白色の鱗片を密布し、中肋には星毛が散生する。初夏葉腋から長梗を垂下して一花を開き、淡黄色の鱗片及び星状毛を被る。萼筒は稍と太く、比較的短かく長さ8mm、基部は急に括れて子房状をなし、裂片は円卵形、鋭頭、4雄蕊、1雌蕊を含む。果実は広橢円形、長さ6mm許ある。



第 3420 図

Elaeagnus multiflora Thunb.
var. *hortensis Servettaz*

人家に植えられる落葉小喬木又は灌木で、高さ2-4m、幹は立ってよく分枝し、若枝に赤褐色の鱗片がある。葉は互生し、長橢円形、全縁、短鋭尖頭乃至鈍頭、下面は白鱗及びこれに疎に混る淡褐色の鱗に覆われる。幼葉は上面に銀白色の星状鱗片毛を以って覆われるが、後脱落して緑色となる。初夏の候、葉腋から長梗を有する淡黄花を1-2個下垂して開く。萼は筒状をなして先端4裂し、広三角形の裂片を内曲して生じ、筒の下部は急に括れて子房状をなし、全面に白色及びこれに混る淡褐色の鱗片を布く。4雄蕊、1雌蕊あり、子房は萼底に閉在する。果は長橢円形で、ナツグミに比して大形、枝に刺針がない。



第 3421 図

なにわす

一名えぞなつぼうす、えぞおにしばり

Daphne kamtschatica Maxim.
var. *ezoensis Ohwi*

北海道、本州中部以北(越後)の山地に産する雌雄異株の落葉小灌木。疎に太い枝を分ち葉は互生、倒披針形で、鈍頭、全縁、質薄く、下部は楔形を呈し、下面稍と粉白を帯びる。花は極めて短い小梗を具えて黄色を呈し、枝端に多数集合し、萼は其の下部筒を成して、筒部は内外2列4片に分れ、筒部の内壁には上列4個、下例4個合せて8雄蕊があり、花糸は短かく葯は内向する。花筒の底に狭長橢円形、無毛の1子房があり、その片方の腰に1花盤を具える。ナニワズはオニシバリに対する信州方言で、北海道に於て信州人が本植物をかく呼んだのに初まると言う。他の和名は一見ナツボウズ即ちオニシバリに似て、北海道に産する故に名づけた。



じんちようげ科

からすしきみ

Daphne Miyabeana Makino

北海道、本州中北部の林下に生ずる常緑小灌木で、高さ約1m、太い枝を疎に分ち、枝は表面滑沢であるが、幼枝には時に細毛がある。葉はやや密に互生し、薄い革質、倒披針形で鋭頭、或は鋭尖頭鈍端、基部は狭楔形で短柄を有し上面に光沢があり、長さ7-10cm許ある。初夏の候、新梢の頂に頭状をなす花序を出して葉心に十数花を開く。花は白色、筒部は無毛、長さ約5mm、裂片は4個開出し、卵形、鋭頭、3脈を有し、雄蕊8個あり、その中4個は萼の上方に着き、花喉に現われるが、下方の4個は筒内にかくれる。1雌蕊があり、子房は無毛、漿果は短橢円形、径約8mm、熟すれば赤色となる。



じんちようげ科

しきざきべごにあ

Begonia semperflorens Link et Otto

ブラジル原産の多年生草本。本邦では温室、フレームで越冬せしめる。全株無毛、高さ15-30cm許、根際より多数分岐し、肉質多汁の厚葉を互生する。葉面は左右不同の卵形、表面に細胞性的小隆起があり、光を反射して光沢が強い。夏期強い陽光に当たると全体赤色或は赤紫色を呈する。葉縁は赤色濃く、不齊鋸歯がある。花は葉腋より相次いで出で、年中絶えず、淡紅色時に濃赤色の品種がある。雄花は4弁、その中一対は小さく、長径1-2cm、黄色雄蕊多数がある。雌花は5弁、下位子房は倒三角錐形で、大形の3翼を具えている。花後、微小の褐色種子を生ずる。



しゅうかいどう科

たいようべごにあ

Begonia Rex Putzeys

印度アッサム地方原産の多年生草本。本邦では、冬期温室に取り入れを要する。茎は太く短く地上を匍い、僅かに分枝して、長柄の大葉を叢生する。葉片は左右不同、卵形、尖鋭頭、心脚、長さ20-30cmに及び、波状歯牙縁をなし葉面は葉柄と共に粗毛があり、上面は普通、帯緑銀白色の馬蹄形の斑紋を現わし、下面は暗赤紫色、夏日葉を僅かに抽いて、疎に分枝する粟繖花序を出し、長梗を有する淡紅花を開く。雄花は4弁、長径5cm許ありその一対は小形。雌花は5弁、雄花より小形で、下位子房は3翼が著しい。



しゅうかいどう科

第 3423 図

第 3424 図